

平成23年9月26日

津波で被災した三陸の養殖漁業復興への日仏海洋学会の貢献：義援金のお願い

小松輝久・小池康之

## 1. 趣旨

日仏海洋学会は、日本とフランスの海洋学および水産学の研究交流を促進することを目的として、1960年に創設されました。当初、海洋学分野でバチスカーフなどを用いた深海資源開発研究の交流を進めてきましたが、1960年代後半から水産学分野で養殖技術研究の交流が活発に行われてきました。

フランスでは、1950年代に養殖分野の主要種であるヨーロッパガキおよびポルトガルガキの生産量が10万トンに達しましたが、その後、沿岸開発などの環境変化と都市化による排水などが原因で疾病による死亡率が高くなり、生産量が著しく減少し続けました。そのため、1970年～1973年の間に、日本の三陸沿岸、特に宮城県から、環境変化に強い日本産のマガキ稚貝1万トンがフランスに移植され、フランスのカキ生産の復興に大きく貢献しました。日本産マガキの新しい環境への優れた適応能力のおかげで、フランスのカキ養殖の生産は再び急速に回復し、1990年代には15万トンに達しました。このため太平洋産マガキを、フランスでは「日本のカキ：Les huitres japonaises」と呼ぶようになりました。日仏海洋学会は、研究者交流等を通じて、フランスのカキ養殖の危機救済に非常に大きな貢献を果たすことができました。これは、日仏海洋学会の誇りであります。

今回、東日本大地震に伴う津波によって、三陸地方、特に岩手県と宮城県のカキ生産業者が甚大な被害を被ったことに対して、フランスの仏日海洋学会および関係者から日仏海洋学会に対し、義援金をフランスで募りたいという強い申し出がありました。

このフランス側の意を受けて、まず、カキ養殖業、特にカキ養殖の全ての基となる種ガキ養殖場の復興に寄与することを趣旨とした義援金を募ることにしました。毎年、宮城県のカキ生産組合では国内の70%に上る種ガキを生産し、全国に出荷しています。今年も、出荷種ガキ採取の時期を検討するために、夏の繁殖期に浮遊幼生の採集と、顕微鏡による個体数と発生過程の確認（種見作業）を行う予定でしたが、津波により動物プランクトンネットや顕微鏡を失って、この作業ができない状況にありました。

そこで、仏日海洋学会およびフランス養殖業発展協会から7月に送金された義援金をもとに、宮城県水産技術総合センターおよび宮城県漁業協同組合にこれらの装置を寄贈し、復興への足がかりとしていただくことにしました。種ガキ採取時期が夏季に限られているため、緊急にこれらの装置の手配を行い、本年7月29日に宮城県水産技術総合センターおよび宮城県漁業協同組合に、実体顕微鏡、生物顕微鏡、各1式、北原式定量プランクトンネット2式を寄贈しました。装置の入手に際しては、オリンパスメディカルサイエンス販売（株）および（株）離合社から、震災復興を願った格別のご厚意の申し出があり、あ

りがたくお受けしました。この寄贈については、河北新報に記事として掲載されるとともに、宮城県のホームページにも掲載されています。

また、岩手県でも、マガキ、イワガキなどのカキ類、ホタテ、コンブ、ワカメの養殖が重要な産業であり、岩手県水産技術センターが県の水産振興のための研究を行ってきました。しかし、今回の災害により宮城県と同様に研究設備を亡くしてしまいました。そこで、フランス側の委員と計りこれら養殖に役立つ顕微鏡などを寄贈することとしました。さらに、宮城県でも、カキ養殖に必要なこれらの機材がまだ十分でないことから、さらに義援金が集まれば、新たに機材を寄贈します。

以上のことから、フランスの研究者に呼応して日本でも、日仏海洋学会会員を中心に広く義援金を募ることとしました。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

## 2. 日仏の窓口

フランス側：Prof. Cathrine Mariojous (フランス水産養殖業発展協会会長)

住所：INRA P-G.

Claude Bernard, 75231 Paris cedex 05, France, email: mariojou@inapg.inra.fr

Prof. Hubert Ceccaldi (仏日海洋学会会長)

住所：27 rue Rocca, 13008 Marseille, France. email : ceccaldi.hubert@orange.fr

日本側：日仏海洋学会 小松輝久、小池康之

## 3. 期間、方法など

2011年6月18日の日仏海洋学会総会で報告の後、「津波で被災した三陸沿岸の養殖漁業の復興のための日仏海洋学会実行委員会」を組織しました。

募金期間（第一次）：2011年12月末まで

方法：フランス側は日仏海洋学会およびフランス養殖業発展協会が窓口になり義援金を募ります。

日本側は、学会機関誌「うみ」およびホームページに趣旨を掲載し、義援金を募ります。送金は以下の振込口座にお願いします。

振込口座 三菱東京UFJ銀行 恵比寿支店 (店番号136)

普通口座 口座番号 0237204

口座名 日仏海洋学会 津波被災復興実行委員会 代表  
小松輝久

フランス側は、日本で開設した口座へ円建てで振り込みます。

日本側の募金と合わせて機材を購入し、岩手県、宮城県に寄贈し、それぞれの県の水産試験研究機関に寄託し、関係する生産組合の共同利用に供します。

以上